

# ガン検診を受けて下さい



高原 真（たかはら・まこと）

私は生来几帳面な性格で、決められたルールを守ることは私の人生で一番の優先事項です。健康診断も、1年に一度と決められたとおりに、83歳まで、一回もかかさずに行き続けてきました。ところが、妻に認知症状がでてから、妻の食事の準備や片づけ、介護などをするようになり、疲れや忙しさも手伝って、健康診断をしばらくの間受けない時期が続きました。それまでずっとまじめに受けていて、ほとんど異常がなかったため、「自分にはガンはできない」と慢心していたのかもしれませんが。

妻は昨年11月に、腎盂腎炎を契機に発生した敗血症で急逝してしまいました。実はその数カ月前から、なぜか毎日記録をつけていた私の体重が徐々に減り、食欲がなくなってきていたので、「おかしい、検査を受けなくては」と思っていた矢先のことでした。



通夜の席で、医師である息子に私の症状を告げたのですが、息子は医師の勸でおかしいと思ったのでしょうか、すぐに検査を予約しました。その結果、進行した大腸ガンと、多発肝転移が見つかったのです。

## ひとたび進行癌にかかるるとこんなに日数が必要となる



お陰様で、抗癌剤の効果は一時的には良く、私は3月に予定されていた趣味の絵画の個展を、なんとか開くことができ、多数の旧友に会うことが出来ました。これは本当に幸運だったと思います。しかし、検診を受ける僅かな時間や費用に比べたら、私にいま起こっているさまざまなことからは、比べ物にならないくらい大きな負担です。また、他人に迷惑をかけず生きることを是としてきた私は、温かい家族の心に感謝する一方で、彼らの時間を奪うことを申し訳なく思っています。

私のガンの治療経過。最初に見つかった時（左）は、肝臓に多数の転移が認められ、またリンパ節にもたくさんの転移がありました。幸い、化学療法（抗癌剤治療）ですこし良くなりました。



私の息子は、MRIの検査法を考案して学会で認められながらも、それを社会に還元できていなかったことを悔いているようです。私の病気がみつかってからというもの、がんのスクリーニングをどうしたらよいか悩み、今回の特別な検診方法を考え、実践するに至ったと聞きました。親馬鹿ではあるかもしれませんが、私自身の経験を通して、ここで提案されていることは、心から大切だと思います。どうかみなさん、検診を受けて、そして癌を小さいうちに見つけ、より良い人生をお送り下さい。